

現代の営業マンが江戸幕府を斬る！

『営業のプロから見た松平定信』

江戸の人事は現代に通じる。生涯営業一筋の著者が分析した組織の人間学。



営業のプロ
幕府老中

幕政の頂を目指して定信がくり出す驚きの過激な行動の数々。

得意の絶頂の彼に突然訪れる解任。一体何がどうなっているのか。

営業、政治など人間関係を主体とする職業に必要不可欠なものとは何か!!

欠陥人間松平定信がのこした多くの貴重な失敗に学ぼう。

から見た
松平定信

坂本屋 三郎◎著

2013年5月1日出来、5月17日発売。

人間関係は営業マンが関心を払うべき中心の問題だが、特に社内の人間関係に悩む人をよく見かける。そうしたビジネスマンにとって松平定信はまさに生きた教材である。

将軍家治の嫡男家基の突然の死によって、田安賢丸(まさまる、後の松平定信)に将軍の跡継ぎになるチャンスが訪れた。だが、田沼意次と一ツ橋治済の共謀により賢丸は白河藩の松平家に養子に行かされた。野心家の定信は以後この二人に含むところがあった。ほどなく彼は定信派をたちあげ、老中になることを目指すが、それは藩を挙げての一大プロジェクトになった。

田沼に賄賂を贈り老中になる資格を得る定信。老中になるやいなや家治死去の責任を田沼に問い、追罰を連発して意次を死に追い込む。次から次へと繰り出す定信の興味深くも驚くべき過激な行動の数々……。

彼は老中の首座を占め、部下の老中連中もすべて彼の引きでその地位に就いたものばかりであった。順風満帆に見えたその彼に、ある日突然思いもかけない運命が訪れた。彼だけがたった一人、老中の地位から解任されたのである。

しかしこれは彼の人間性がもたらした必然の結果に過ぎないというのが、営業のプロとしての著者の結論である。松平定信は滅多にいない様々な才能を持つ人物だったが、同時にそれにも増して珍しい欠点を持つ人間でもあったのである。

著者：坂本屋 三郎(さかもとや さぶろう) 大学卒業後の現役時代のすべてを大手企業の営業マンとして過ごした。その間、不渡りをつかむ危険のある末端の営業や地方の営業までを体験している。ペンネームは生家の屋号からとった。

ご注文申込書 貴店名/帖合	注文数	発行:eブックランド社 TEL:03-5930-5663 info@e-bookland.net FAX:03-3333-1384
	冊	坂本屋 三郎 著 営業のプロから見た幕府老中 松平定信 226頁/A5版/ソフトカバー帯付/定価1500円(税別) ISBN:978-4-86521-001-9 C0023

ご注文は JRCまで FAX:03-3294-2177(TEL:03-5283-2230)

株式会社JRC経由で、主な取次への出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。